



にぎわいをみせた越前おおの踊り!

新婚ホヤホヤの、うぐビー、うめビーも一役
(8月15日・16日六間大通りにて)



6年7月 第273回 定例会

11議案を可決・同意

— 市会案3件も可決 —

審議日程

- | | | |
|-----|-----|--|
| 19日 | 本会議 | (会期の決定、議案上程、提案理由の説明) |
| 20日 | 休会 | |
| 21日 | 休会 | |
| 22日 | 本会議 | (一般質問) |
| 23日 | 休会 | |
| 24日 | 休会 | |
| 25日 | 本会議 | (一般質問、陳情上程、各案件委員会付託) |
| 26日 | 委員会 | (建設・産業経済) |
| 27日 | 委員会 | (教育民生・総務) |
| 28日 | 休会 | |
| 29日 | 本会議 | (各委員長報告、質疑・討論・採決、追加議案上程、市会案上程・採決、広域行政事務組合議会議員補欠選挙) |

任期満了に伴う市長選挙のため開会が遅れていた第273回定例会は7月19日に開会され、会期を29日までの11日間と定め、理事者から提出された議案11件と市会案3件を審議しました。

初日には、市長の所信表明の外、平成6年度一般会計補正予算(第1号)案をはじめ、各提出議案について提案理由の説明が行われました。

22日には一般質問が行われ、砂子三郎(清友会)木下 境(同志会)牧野幸太郎(清友会)林 順一(同志会)の4議員が、また25日には野田幾久代(無)栄 正夫(共産)坂元千秋(公明)村西利榮(社会)の4議員がそれぞれ一般質問を行いました。

質問終了後、陳情が上程され、次いで議案および陳情が所管の各委員会に付託されました。

最終日には各委員長報告の後、人事に関する追加議案1件を含む議案11件の採決が行われ、いずれも原案どおり可決・同意されました。また市会案3件も原案どおり可決され、各関係行政機関へ意見書を提出することになりました。

最後に、大野・勝山広域事務組合議会議員の補欠選挙を行って、閉会されました。

市民の皆さんから出された陳情の結果は別掲のとおりです。

市政をきく 一般質問から

亀山トンネル問題について

問 ①市長は「六間アクセスは実施するが、亀山トンネルは絶対掘らない」と言明している。今後どう対応するのか。
また、有終西小学校の移転先はどこにする考えか。
②亀山トンネルを掘ることが市街地の活性化にはつながらないと述べているが、具体的な根拠はどこにあるのか。
③大山区で土地改良をする際に地権者の方々が、亀山トンネルを掘ることを信用して、県との間で道路用地等の交渉に応じているが、どう対応するのか。

答 ①大野の歴史、文化、自然を大切にしていくなかで、性急にトンネルを掘ることが、市

街地の活性化につながらないと基本的な考えである。

今日まで亀山トンネル早期着工の方針で、準備を進めてきた経緯は十分承知しているが、中部縦貫自動車道の計画ルートを見極め、大野市全体の道路体系の在り方を再検討する中で、六間アクセスの最良の解決策を、市議会および市民との協議を通じて探っていききたい。

その際、市街地整備基本計画策定委員会で審議した「市街地整備基本計画」で、示された考え方を基本にしていききたい。

有終西小学校の移転は、亀山周辺全体計画を考慮に入れながら、地域住民、地元商店街、学校等関係者と十分協議して解決していききたい。

②市街地活性化方策を構ずることとは、当市の重要な政策課題であると認識している。

この方策には、ハード、ソフトの両面が考えられるが、現時点では新しい商業集積を図ることや波及効果のある商業の拠点施設の整備を図ること等も合わせて、亀山トンネル問題も総合的に検討すべきである。

商店街の活性化と亀山トンネルを即結び付けることは、大野市民全体として慎重に考えなければならぬ問題である。

③大山区の地権者の方々との話し合いは、もっともだと思っ

ので、庁内会議や県と協議した上で、なるべく早く地権者の方と話し合いたい。

総合病院建設問題について

問 市長は「医療不安の解消等を図りたい」と述べているが、赤字覚悟でも病院を建設する考えか。

また、「総合病院検討委員会」を設置したいと述べていたが、現在設置されている「地域医療協議会」との関連性はどうか。

答 以前から多くの市民が総合病院の実現を望んでいることは承知している。

今までに公的病院を誘致すべく話し合いを進めてきたが、現状はなかなか困難である。

行政を担当するものとして大野市全体の中から、財政的、人的、組織的などの問題点も考慮して、政策を遂行していく必要があると考えており、今後総合病院にかかる問題点等を総合的に調査していききたい。

「検討委員会」については、必ず設けるというのではなく、地域医療協議会で審議しながら議員および関係各課の意見を聞いて考えていききたい。



議案等の審議結果

議案番号	件名	結果
第二十九号	平成六年度大野市一般会計補正予算(第一号)案	原案可決
第三十号	平成六年度大野市国民健康保険事業特別会計補正予算(第一号)案	原案可決
第三十一号	平成六年度大野市老人保健特別会計補正予算(第一号)案	原案可決
第三十二号	平成六年度大野市簡易水道事業特別会計補正予算(第一号)案	原案可決
第三十三号	平成六年度大野市農業集落排水事業特別会計補正予算(第一号)案	原案可決
第三十四号	大野市印鑑登録及び証明に関する条例の全部を改正する条例案	原案可決
第三十五号	大野市体育施設設置条例の一部を改正する条例案	原案可決
第三十六号	大野市公共施設使用料徴収条例の一部を改正する条例案	原案可決
第三十七号	大野市ホームヘルパー派遣手数料徴収条例の一部を改正する条例案	原案可決
第三十八号	辺地総合整備計画について	原案可決
第三十九号	固定資産評価審査委員会委員の選任について	同意
市会案第五号	核兵器全面禁止・廃絶国際条約の締結を求める意見書	原案可決
市会案第六号	水田営農政策に関する意見書	原案可決
市会案第七号	義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書	原案可決

中部縦貫自動車道について

問 ①中部縦貫自動車道は、大野市の最重要課題であると述べているが、インターの設置場所はどこが適当と考えているか。

また、一カ月以内に地元との交渉に入りたいとも述べていたが、メドはいつの時点か。

②中部縦貫自動車道との関連において、東縦貫線についても重要な問題であると考えるが、どうか。

答 ①中部縦貫自動車道については、平成元年十月に大野・永平寺間の工区が施行されて以来約五年経過している。今後の取り組みとしては、地区の活性化対策および環境の整

議会を傍聴しましょう。

議会事務局で住所、氏名を記入するだけで、傍聴することができます。詳しくは、大野市役所議会事務局へお尋ねを。

次回の定例会は、9月中旬ごろの予定です。

備対策等について、県および建設省、庁内の関係各課で十分協議して、なるべく早く関係地区へ出向き、理解を得たいと考えており、誠心誠意取り組んでいきたい。

インターについては、まだ関係各課との協議も必要であり、県や国と十分協議しながら、その位置を決めていきたい。

中部縦貫道のメドは、建設省の地元説明会を開いて、了解が得られた時点と考えている。

②東縦貫線は当市にとって重要な基本交通軸と考えている。また、同意を得ていない集落については、精力的に交渉を重ねていきたい。

一般質問の夜間開会について

問 年四回の定例市議会が開会されているが、一般質問に限って夜七時から開会できないか。

答 民主政治の基本として、議会の審議状況を広く住民に理解してもらおう意味から、会議公開の原則が地方自治法で定められている。

議会の傍聴もこの会議公開の原則の一つであるが、この外にも住民に開かれた議会として県内では、議会の会議録を全世界帯に配布している町村もある。

当市では定例会ごとに「議会だより」で、審議の概要を市民にお知らせしている。

一般質問の夜間開会は、議会の範囲に属するので、閉会時刻や議会日程、会期等の関係から困難な面もあると思うが、議会が方向が決まれば協力したい。

市政運営の基本的な姿勢について

問 今後四年間市政を担当する新市長としての、市政運営の基本的な姿勢について伺いたい。

答 基本的な姿勢は、「市民本位の政治」「うそのない政治」「大野の自然と文化を生かせる政治」の三点を政治信条として市民感覚や信頼、また、大野の特性を重視していきたい。

産業、教育、保健、福祉等の振興拡充や人と環境にやさしい市政を、市民とともに推進していきたい。

市長の役割として、一つは行政を円滑に実施して、住民の要請に応じ得る行政官を育てる役割で、これは行政における組織機構の簡素合理化や行政職員の高質向上を図り、意識改革を進めることである。

二つには、地域住民の要望を



七月臨時市議会

第二十六号	専決処分の承認を求めることについて（平成五年度大野市一般会計補正予算（第八号））	承認
第二十七号	専決処分の承認を求めることについて（大野市税賦課徴収条例の一部を改正する条例）	承認
第二十八号	専決処分の承認を求めることについて（大野市国民健康保険条例の一部を改正する条例）	承認
市会案第四号	農業委員会委員の推薦について	原案可決

くみ取り、地域における意識形成を果たす役割で、これは行政が常に地域住民の立場に立って行うとの姿勢で行政を担当していきたいと考えている。

方法論としては、住民と意見を交わすことによって、住民が自らの地域は自らが創造するという意欲を持ってもらうようにしていきたい。

企業誘致と地場産業の育成について

問 企業誘致と地場産業の育成について、市長の考え方は。

また、中据工業団地は、工業団地としてではなく別途利用を模索するつもりか。

答 新しい町づくりの方向として、企業誘致と地場産業の育成

を重視しなければならぬことは当然である。

雇用の確保、若者の定着・定住化、市民所得の向上など、地場産業の育成を第一に考え、先の見通しの明るい産業に着目して、企業の誘致に取り組んでいきたい。

市内には高度な技術や高い生産性を持つレベルの高い企業もあるため、まず地元企業を育成する方策を見出すことが重要であると考えている。

工業団地については、地元企業の立地促進をはじめ、市外の企業の誘致に向け積極的に取り組むたい。

また、中据工業団地については、工業団地として造成したものであり、現在のところ他の目的に使用することは基本的に考えていない。

地下水問題について

問 ①「水質保全条例」を制定したいと述べているが、既に当市に制定されている「地下水保全条例」との関連において、見直しをするのか。それとも改めて制定する考えか。

②工業用水は表流水に、飲料・生活用水は地下水に、それぞれ確保したらどうか。

答 ①当市の地下水は全国に誇り得るものであり、市民の重要な財産であると考えている。

しかし、近年地下水の動向は冬期以外においても水位低下の傾向にあり、用・排水路が分離されていない市街地の水路の状況等を勘案すると、質的な不安もない訳ではない。

従って、今後とも涵養対策や水質検査を継続して注意深く見守っていく一方、市民にも地下水保全条例を遵守していただきながら、合理的な利用に努めていきたい。

また、現在の大野の地下水を考えた場合、量と質の両面から対応していく必要があると考えている。

その中で、水質を保全していくためには「水質保全条例」を制定することが一つの方法であ

ると思う。しかし、他に良い方法があれば条例にこだわらず皆さん方と十分協議して対応していきたい。

②現時点では工業用水を表流水に求めることは不可能に近く、新たな水利権確保は困難である。

従って飲料・生活用水、工業用水とも地下水に求めざるを得ない。

今後とも地下水の涵養対策等キメ細かく実施して、合理的な利用を図っていきたい。

入札制度の改善について

問 現行の指名競争入札の弊害が発注者優位や談合、割高等を生み出す温床になっていると考えるが、条件つき一般競争入札を導入するなどして、抜本的に改善する考えはないか。

答 国および県では工事金額に応じた制限付き一般競争入札や公募型指名競争入札などの新たな制度の試行導入を図り、また、従来の制度の中においても指名基準の具体化および公表を始めている。

県の入札制度の試行導入の対象工事は、制限付き一般競争入札が工事金額五億円以上、公募型指名競争入札が工事金額二億円から五億円までとなっている

が、現在のところ当市では該当する事業は予定されていない。国、県の改善方策と当市の実情を検討して、現行の制度全般について見直しをしたい。

湯の谷温泉について

問 湯の谷温泉事業は、高齢化社会が進む中、市民福祉向上の観点からも、実施していく必要があると思うが、どうか。

答 地元阪谷地区や多くの市民が事業化に期待しているが、多額の事業費を要することや開発の考え方、導入施設の明確な方向付けを、慎重に打ち出さなければならぬなど、議会の審議の中でも論議されている重要な計画であるので慎重に取り扱いたい。

現在、開発用地の地元調整や揚湯試験、水源確保の調査等を検討している段階である。

リゾート計画を含めた都市環境づくりについて

問 リゾート計画を含めた観光行政についての計画と現状はどうか。

答 当市で承認された三つの重点整備地区のうち、大野城下お

請願・陳情の審議結果

番号	件名	提出者	結果
(継続分) 陳情四号	入院給食の自己負担拡大・有料化など健康保険法等「改正」に反対する陳情書	医療と福祉を守る 福井県民の会代表 大門和	不採択
陳情八号	路線バス地元負担金全廃に関する陳情書	井ノ口区々長 酒井碩八郎 外58区長	継続審査
陳情九号	市道の拡幅について	上丁区々長 前田喜与治	採択
陳情十号	「やっぱり食べたい日本のお米」「太い米を作ろう」の国民の声を実現するため陳情書	食糧と健康を守る 福井県連絡会 代表委員 町原秀夫	継続審査
陳情十一号	六呂師小学校ブルーの新設について	阪谷地区々長会長 阪本治士 外2名	採択
陳情十二号	富塚区に簡易水道設置を求める陳情書	富塚区々長 林進 外13名	採択
陳情十三号	公用車輛の購入、車検および点検整備について	福井県自動車整備振興会大野支部支部長 川瀬勝義	採択
陳情十四号	義務教育費国庫負担制度の堅持を求める陳情書	福井県教職員組合 大野支部執行委員長 中森繁夫	採択

よびその周辺地区クラスターは公共事業を中心として整備し、平成五年度末の進捗率は八十二パーセントに達している。

六呂師高原地区については、進出を希望する企業との間で開発プランが進行しており、先日

路線バスの住民負担問題について

問 路線バスの地元負担廃止について、区長会から陳情書が出ているが、地元負担を廃止する考えはないか。

答 路線バスは、ある地域においては唯一の公共交通機関として、学童・老人等の移動手段の確保等地域福祉確保のため必要であり、行政サービスの一つとして位置付けている。

現在は深刻な赤字経営に追い込まれているが、路線バスの公共性の観点から運行の廃止は難しい。

この維持については、バス会社の経営努力だけでは追い付かず、行政、地域、バス会社が一

体となって取り組まなければ困難である。

現在、国の補助制度や廃止路線の協定運行等により、その維持に努めているが、これに必要な経費として二、一〇〇万円を市から補助し、この一部について関係地区の協力をお願いしている。今後は、地域全体の問題としての認識のもとに、各路線ごとに地域の実情に応じ、運行体系の見直しも含めて検討していきたい。

委員会・審議会の在り方について

問 現在の各種委員会や審議会の構成メンバーに、地域の住民組織の代表や女性、若い人などを加える考えはないか。

第272回 7月 臨時市議会

**山内市長の退職申し出に同意
農業委員会委員も推せん**

去る7月6日、第272回臨時市議会が開かれ、山内市長から提出された「犬野市長の退職申し出について」に、全会一致で同意しました。

引き続き、一般会計補正予算(第8号)案をはじめ、先決処分の承認を求める議案3件についても承認。

また、6月30日で任期満了となった農業委員会委員のうち、学識経験者として議事が推せんする委員に、次の5氏を推せんしました。

- | | | | |
|-----|------|-------|-----|
| 田中 | 新一郎氏 | (70歳) | 美里町 |
| 喜多山 | 浩之氏 | (49歳) | 尾永見 |
| 村中 | 清氏 | (78歳) | 泉町 |
| 佐藤 | 善夫氏 | (60歳) | 土打 |
| 原 | 洸氏 | (64歳) | 東勝原 |

また、問題に対する認識、政策を持つている方を公募することや、会合を夜開くことなど、その在り方を改善する考えはないか。

答 各種委員会や審議会については、法律または条例の定めによって設置し、目的に応じて委員を委嘱・任命している。

今後は、今日の時代背景の中で女性の政治参加を推進していく意味からも、女性委員の増加が図られるよう若者も含めて、それぞれの母体である各関係機関と十分調整していきたい。

また、委員の公募制については、それぞれの委員会や審議会の目的、趣旨等を十分考慮しながら、制度導入を検討していきたい。

「検討する」「考慮する」などの答弁事項の報告について

問 議会における一般質問等に対して、「検討する」「考慮する」などの答弁が多いが、議会閉会后どのように検討し、結論付けたかについて、その経過や結果を次回の定例会冒頭に報告する考えはないか。

答 「検討する」と答弁した事項は多くあると思っている。今後は検討を約束した事項については、提案理由の説明の中で報告するか、また、比較的軽易な事項は所管の常任委員会で説明していきたい。

上水道事業について

問 市長は「都市型の上水道は設置しない」と明言しているが上・下水道は一体のものとして並行して、計画的に実施すべきではないか。

答 当市の上水道計画は、単に水道だけの問題として捕らえており、片手落ちで十分な解決にならないと考えている。

表流水利用の問題、財政上の問題、地下水収支の問題、水質の変化、将来の需要の問題等多くの難問があるが、これらをいかにして総合的、実効的に解決していくかが今後の大きな課題である。

従って、正確な実態把握に努め解決に向けて精力的に取り組む、将来にわたって市民に不安を与えないような、総合的な水行政を遂行していきたい。



人事案件

固定資産評価審査委員会委員の選任に同意

野村重一郎氏(52歳)
(日吉町 10-1)

情報化時代における行政の進め方について

問 ①政治理念を達成する上において最大の課題は、当市の情報公開の立ち遅れだと思うが、住民参加の政治を本物にするためにも、開かれた情報社会の構築が目下の急務と考えるが。

答 貴重な共有財産である情報が、市政や市民に十分生かされていないことは、否めないと思っており、改善の余地があると認識している。

行政情報は市民の共有財産であるとともに、個人情報として保護すべきものや、公開することが市民全体にとって不利益となる情報もあるので、これらを整理し、公平・公正に扱うべきと考えている。

情報公開制度については、昭

和六十二年七月「大野市情報公開プロジェクトチーム」を設置し、情報公開制度の導入およびその前提となる文書管理について、その調査、研究を進めてきたが、その結果を「情報公開制度に関する調査研究報告書」としてまとめ、平成六年三月に前市長に提出した。

この制度の導入に当たっては「調査研究報告書」の趣旨に沿って、国の動向やこの制度を実施している市町村での、問題点等も十分調査、検討するとともに、特にプライバシー保護の問題については十分配慮して、制度導入に向けて文書管理規程を定め、情報公開の条例等に向けて、具体的な検討課題に取り組んでいきたい。



産業経済常任委員会 正・副委員長を選出

委員長 村西 利榮 議員
副委員長 木下 境 議員

大野・勝山地区広域行政事務
組合議会議員を補欠選挙

当選

牧野幸太郎 議員

委員会報告

各委員会における協議事項、意見、要望等の趣旨について、それぞれ委員長よりの報告は次のとおり。

● 教育民生常任委員会

○ 寧波市少年サッカー団招待事業補助について

この補助事業は、サッカー競技や市内視察交流等の事業を、大野市日中友好協会および大野市サッカー協会が主催して実施する招待事業で、大野市から百万円の補助をする。

この百万円の算出根拠については、「市で定めてある国際交流事業補助金交付要綱の規定に準じて、算出した額を補助したい」とのことであるが、この補助要綱は、訪問する場合の補助基準である。現在は、明確な招待事業に係る補助規定が整備されていないため、補助目的の基本的な裏付けがない。

また、こうした事業は、国際交流事業の経過から判断して、本質的には行政が主催して実施すべき事業であるのに、単に補助金を交付すればよいとの観念

だけを先行させたため、主催者側に多額の負担を強いることとなり、計画性や慎重性を欠いた補正である。

しかし、過去の経過から中国との友好交流、ひいては少年達の国際交流事業であることの重要性や、事業の期日が迫っている状況等から判断してやむを得なかつた。今後は事業内容等について十分精査・検討されるとともに、国際交流の派遣事業や招待事業などが予想されるので、早急に各関係課と協議し、明確な補助基準を定められたい。

● 建設常任委員会

○ ふれあい公園の管理・運営体制について

この施設は、県の工事として事業に着手し一部完成して、県からの受託契約に基づいて都市計画課が担当し管理・運営している。現在は、臨時職員を一名配置し、土・日曜日は都市計画課の職員が交代で勤務している。しかし、現在の勤務体制ではせっかく立派に建設された施設が、果たして市民サイドに立って有効かつ効率的に管理・運営がされているかどうか、懸念される。また、施設そのものの本質から考えて、現行の都市計画

課所管の管理・運営体制が適切か、どうか、各関係課との調整を行うとともに、現有の各公共施設との有機的・効率的な活用を図るためには、公共施設の一元的な管理・運営体制の確立についても、今後検討する必要があるとの意見が述べられた。

● 総務常任委員会

○ 納税の口座振替制度について

この制度は、市税における普通徴収の効率化を目的に、本年四月から始められたもので、現在では口座振替制度の加入者が五割を超え、順調な推移を見せている。しかし、これまで納税組合が果たしてきた役割が薄れ滞納者が増加するのではないかと懸念されるので、今後は滞納防止、徴税率の向上に一層努められたい。

○ 陳情十三号公用車輛の購入、車検および点検整備について

行政として、より厳正な発注に心掛け、また地元業者を重視するとういう観点から、当委員会ではこの陳情書を賛成多数で採択と決した。

しかし、購入、発注に当たってディーラー（販売業者）を除く外する点や、車検点検整備の発

注での福井県自動車整備振興会大野支部への一括発注については、市全体としての公平性に配慮し、また、法的妥当性も十分考慮した上で対応する必要があるため、今後陳情者との協議を深めながら、妥当性の範囲内において対処されたい。

● 産業経済常任委員会

○ たい肥センターについて

環境にやさしい農業の推進という観点からも、たい肥の製造や施用による土づくりの推進、農業振興は期待されている。センターの建設については、

現在その建設用地の選定とともに、施設内容の吟味やJAおよび畜産農家の調整等を行っているが、計画推進に当たっては、施設の概要やその採算性に十分留意しながら、計画を進める上で手順等を誤ることなく計画的に進められたい。

○ 農業集落排水施設について

この施設の管理等について、水質検査を定期的に実施しており、現在のところ適正な数値を維持しているとのことだが、水質保全の観点から、今後もその浄化の効率性や汚水の成分等について、詳しく調査を行い効率的な処理方法を研究されたい。